

めぐみイエス・キリスト教会

2022年7月10日(日)第二主日礼拝
週報「通算第616号」



2022年標題聖句

第 I テモテへの手紙御6章17節～19節

《高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置き、善を行ない、立派な行ないに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌268「御国の心地す」 p. 422

【交読文】 No.21 詩篇第62篇(抜粋) p. 895

【賛美Ⅱ】 新聖歌340「救い主イエスと」 p. 540

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.15「野に咲く花も空の鳥も」

【聖書朗読】 使徒の働き18章1節～5節(新約p. 271下段)

【礼拝説教】 《アキラとプリスキラ》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(使徒の働き18章1節～5節)

18:1 その後、パウロはアテネを去ってコリントに行った。

18:2 そこで、ポントス生まれでアキラという名のユダヤ人と、彼の妻プリスキラに出会った。クラウディウス帝が、すべてのユダヤ人をローマから退去させるように命じたので、最近イタリアから来ていたのである。パウロは二人のところに行き、

18:3 自分も同業者であったので、その家に住んで一緒に仕事をした。彼らの職業は天幕作りであった。

18:4 パウロは安息日ごとに会堂で論じ、ユダヤ人やギリシア人を説得しようとした。

18:5 シラスとテモテがマケドニアから下って来ると、パウロはみ言葉を語ることに専念し、イエスがキリストであることをユダヤ人たちに証した。

●ポイント1.「コリント」とは？

■コリント 中央ギリシヤとペロポネソス半島を結ぶ地峡の2.5km南にある都市で、ローマ・アカヤ州の首都であり、地方総督が在住していた。

また、通商と交通の要路であった。町はアクロコリント(高さ566m)の山すそにあり、山頂にはアフロディト(愛の女神)の神殿があった。そこでの神殿売春は多くの人と富を引きつけ、ついにコリントは不道德の代名詞とまでなった。最盛時には自由民20万人と50万人の奴隷がおり、多くのローマ人とギリシヤ人の他に、かなりの数のユダヤ人も居住していた。

●ポイント2.「アキラ(アクラ)とプリスキラ」とは？

※使徒の働き2章9節～11節「聖霊降臨日」 (新約p.234上段左側)

■アキラ ポントス生れのユダヤ人で、妻のプリスカと共に、パウロの忠実な協力者。もともとはローマに住んでいたが、ユダヤ人追放令が出た時、コリントにやってきた。その時すでに、アキラ夫妻はキリスト教に回心していたと思われる。パウロと出会った2人は、彼を自分の家に住まわせ同業者として天幕作りを共にしながら、その伝道を助け大いに成果をあげた。

■プリスカ アキラの妻で、愛称プリスキラとも呼ばれる。このユダヤ人夫婦は異邦人の間でも受け入れられており、プリスカの名前がアクラよりも先に書かれているのは、彼女の方が教会において影響力を持っていた為か、あるいは、夫より先に救われたからではないか、と考えられている。

●ポイント3.「ユダヤ人追放令(退去命令)」とは？

■ローマ帝国第4代目の皇帝クラウデオ(クラウディウス帝・在位紀元41年～54年)が、紀元49年に「クレストゥス(キリスト?)の指導のもとに、絶えず反乱を起すユダヤ人を、ローマから追放した」と、言われている。

※ローマ人への手紙8章28節「使徒パウロの確信とは」 (新約p.238)

8:28 神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。

◎先週の礼拝メッセージの概要【アレオパゴスでの証言】

《パウロがアテネの「アレオパゴス評議会」で行なった証言について、共に考えて見ましょう。パウロは、評議会に対して、非常に敬意を表わし、言葉を選び、そして相手の立場を尊重して話を進めています。このやり方は、まさにパウロが、「コリント教会への手紙」に証言している通りです。『私は誰に対しても自由ですが、より多くの人を獲得する為に、すべての人の奴隷になりました。何とかして何人かでも救う為です。』と。

さて、パウロはたった一人で評議会に立ちました。かつてエルサレムの最高法院で同じような光景がありました。しかしその時、真ん中に立ったのは、最初の殉教者ステパノです。ステパノは聖霊に満たされて、一人で弁明したのです。ルカは、『最高法院で着席していた人々が、ステパノに目を注ぐと、彼の顔は御使いのように見えた。』と、証しています。

パウロもこの時、聖霊に満たされ、『知られていない神』について、解き明かします。しかし、パウロはメッセージの中において、あえて一度も「主イエスの御名」を語ってはいないのです。主の御名を伏せているのです。

パウロが語り終えて、アレオパゴスから出て行った時に、つき従った者たちがいます。その者たちは、パウロが語る『知られていない神』について、もっと知りたいと言う願望が起こされた者たちなのです。

彼らはパウロの語る言葉に目覚め、パウロの後を追いました。そして福音の奥義を教えられ、ついに主イエスを信じるのです。ここに教会が誕生しました。ルカは、ここで二人の人物について名前を明かしています。

一人が「アレオパゴスの裁判官ディオヌシオ」で、もう一人が「ダマリス」という名の女の人です。この二人こそが、後のアテネ教会の指導者になるのです。神様は、どんな状況であっても、すべての事を働かせて益として下さることを、私たちは知っています。この二人がアレオパゴスにいたことは偶然ではなく、神の摂理の中に必然であったことが分かります。》

◎お知らせ

※7月17日(日)の第二主日礼拝は、通常通り午前10時からです。また、7月31日第五主日礼拝は、特別メッセージとなります。